



**Amir Tsarfati**

**2020年9月1日「Q&Awithバリー・スタグナー牧師」**

---

- この日の質問内容 -

**Q1**：「なぜ聖書には、エノク書がないのですか？エノク書をどう捉えればよいですか？」

**Q2**：「これは、"キリストのからだ"である花嫁とは別の花嫁でしょうか？それとも、同じ集団ですか？」

**Q3**：「エゼキエル38章のシナリオが繰り広げられ、本当に実現するためには、イスラエルとアラブ首長国連邦の間にあるような外交的な合意が、さらに多く必要なのでしょうか？これは本当に良い事で、そこから、良い影響がたくさん出ていますから。しかし、エゼキエル38章のシナリオが現実のものとなるためには、さらに何かが必要なのでしょうか？」

**Q4**：「千年王国の間、地球はどんな姿になるのでしょうか？今と似たような感じでしょうか？機能は似たようなものになりますか？環境はどうでしょう？」

**Q5**：「サタンが落とされた時、彼は実際、まず、どこに投げ込まれたのでしょうか？そして、ヨハネの黙示録では、大患難の半ばに彼が天から追放されたことも書かれています。これら2つのシナリオを、どのように区別すればよいのでしょうか？」

**Q6**：「ダニエル書12:1によると、著者が記録しているところでは、世界が見たこともないような苦難の時になるとのことですが、これは7年間全体を指しているのですか？それとも後半の3年半だけを指しているのですか？」

**Q7**：「ユダヤ人達は、どこに逃げるべきかを、どうやって知るのですか？多くの選択肢があるのでしょうか？どこに逃げるべきか、彼らは、どのようにして知るのですか？」

**Q8**：「イエスは御父の右に座しておられるけれど、今はどうなのか？」

**Q9**：「ダニエル9:27によると、宗教的なユダヤ人がいけにえを捧げ、神殿での儀式を行う場所があることが分かります。私達はここにはいませんが...しかし、ダニエルが言っているのは、彼らは神殿を再建して、実際に、旧約聖書に見られる、レビ記の律法とレビ族の祭司の生活を送るということでしょうか？彼らは、現代でも同じことをするのでしょうか？」

**Q10**：「大患難の前に起こるべき事は、まだ何か残っているのでしょうか？聖書の預言的な時間軸上で、大患難の前に起こる事として、私達が予測しておくべき出来事はありますか？」

**Q11**：ひと昔前、紀元前730年頃にアッシリア人がダマスカスを包囲して、地域を占領しましたが、それをどう区別し、イザヤ書17:1と、どう同列にするのでしょうか？アッシリア人は攻め込みましたが、しかし、これがイザヤ書17:1が告げているものとは異なる出来事である事が、どうして分かるのでしょうか？」

[アミール] 今日は、バリー・スタグナー牧師とビホールド・イスラエルのジェイソン・コーメンズが一緒です。お二人を一緒に画面に表示します。カルバリーチャペル・タスティンのバリー牧師。こんにちは、バリー牧師。

[バリー牧師] シャローム、また会えて嬉しいです。

[アミール] それから、ジェイソン・コーメンズ、今日の管理人です。

[ジェイソン] 皆さん、こんにちは！

[アミール] アリゾナに住んでいますね。

[ジェイソン] その通りです。

[アミール] 今日、ジェイソンはマイク・ゴレイ牧師の代わりに務めてくれます。

[ジェイソン] その通りです。

[アミール] ジェイソンが皆さんのご質問をすべて受け取って、今日のQ&Aの司会を務めてくれます。では、お祈りから始めて、それからQ&Aに入ります。

お父様、あなたのみことばに感謝します。あなたのみことばは真実です。今日、あなたの真理、あなたのみことばによって、私達を聖別してください。私達の意見や憶測、考えではなく、神のみことばに沿うことが出来ますように。技術面、また質問や流れ、全てをあなたがコントロールしてください。また、お父様、内容があなたに栄光を帰すものとなりますように。あなたに感謝をささげ、あなたを祝福します。イエスの御名において。アーメン。

はい。さあ、皆さん。今日はジェイソンが皆さんのご質問を受け付けます。質問は、彼にお送りください。彼はまた、用心棒も務めます。退席を命じられませんように。…とにかく…(笑)ごめんなさい。はい、ジェイソン、最初に何かありますか？

[ジェイソン] ええ。その前に、今日は私を迎えてくださって、本当にありがとうございます。それから確認事項です。ご質問はコメント欄にお願いします。また、たくさんのご質問をいただきたいと思います。すべてにはお答えできませんが、できる限り多くの質問にお答えできるように努めます。それから、マイク牧師のためにもお祈りをお願いします。彼は米空軍予備軍の牧師も務めていて、今週はとても忙しくしていますから、どうか彼の事もお祈りください。では、最初の質問はタミーからです。

**Q1：「なぜ聖書には、エノク書がないのですか？エノク書をどう捉えれば良いですか？」**

[アミール] はい、バリー、その質問にお答えいただけますか？

[バリー牧師] ええ、是認の行程を含め、それが聖書に加わるかどうかを決める基準があります。しかし、何よりも第二テモテ3章16節が告げている事を思い出さなければいけません。

**「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」**

**(第二テモテ3:16~17)**

そして、ペテロが言ったように、神が聖書の著者たちに靈感を与え、「**聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語った**」(第二ペテロ1:21参照)エノク書は、靈感によって書かれた書物として認識されていません。歴史的に正確な情報が入っているかも知れませんが、また、ある意味、靈感は受けているかも知れませんが、しかし、聖書の中にあるものを定められたのは神です。興味深いことに、ユダの福音書やエノク書などが、最近、注目を浴びていますが、これは何も新しい事ではありません。しかし、それらは聖書の中に収める為に神が靈感を与えられたものではありません。神は御言葉を書き留める事を求めておられ、「これらのことを書き留めておきなさい」と何度も仰っています。神はハバククに言われました。

**「幻を板の上に書いて確認せよ。これを読む者が急使として走るために」 (ハバクク書2:2b)**

そして、その書物に書かれているみことばを読んで守ることについて、黙示録の中に同じことが書かれています。つまり、神が靈感をお与えになり、構成も含めて、神の御言葉の内容を支配しておられ、人生と敬虔さに関連して、私達が知る必要のあるすべてのことが含まれています。他にも補足的な本、いわば聖書の解説書のような本がありますが、それらは聖霊の靈感を得て書かれたものではありません。

**[アミール]** ええ。付け加えて言えば、現在の聖書でさえ、死海文書と一緒に聖書にない箇所が見つっています。たとえば詩篇151篇があります。詩篇は150篇しかないことは誰もが知っていますが、死海文書の中に、追加の詩篇が見つっています。その詩篇を読めば、ダビデは朝起きて調子が悪かったのか、あるいはダビデ以外の人が書いたのか、この詩篇では非常に自慢気で傲慢なダビデが描かれているのです。これは、詩篇にあるダビデの本来の姿とは正反対です。「主が、すべての兄弟の中から私を選ばれ、私が指導者となり、私がそれを行うのだ」神の御霊が靈感を与えていないことが分かりますね。さて、繰り返しますが、もし、それをダビデが書いたのであれば、聖書の中に何を入れ、何を入れないのか、何が靈感を受けていて、何が靈感を受けていないのかを見事に示していると思います。ですから、バリー牧師が言ったように、エノク書が聖書に入っていないのには理由があって、恐らく、神の御霊の靈感を受けていないのでしょう。しかし、歴史的に貴重な情報が入っていると思います。聖書の中で言及されていますから。誰もがそれを知っていた事が分かりますし、きっと読んでいたのでしょう。しかし、それが神の御言葉として引用された事は一度もなく、聖書の中に、こんな文章は一つもありません。「このように、預言者エノクによって語られた御言葉が成就した」こういったことは聖書には書かれていません。これが私の答えです。

**[ジェイソン]** ええ、そうですね。聖書の中の不明確な部分は、必ず、明確に書かれている箇所によって解釈する事を忘れてはいけません。エノク書は一度言及されているだけです。さて、次の質問に行きます。次の質問はリンダからで、黙示録21章1～2節に関するものです。お読みします。

**「また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。」 (黙示録21章1節から2節)**

さて、リンダの質問は、

**Q2: 「これは、"キリストのからだ"である花嫁とは別の花嫁でしょうか？それとも、同じ集団ですか？」**

バリー牧師、先にお答えいただけますか？最近、黙示録を教えておられますね？これに関して、いかがでしょうか？

**[バリー牧師]** ええ、これは、読者が、ある言葉や場面を思い描きやすいフレーズを使っているのです。一つに、花嫁とは綺麗である事。そして、花嫁が一番綺麗なのは結婚式の日です。最高の衣装を身にまとい、髪を整え、そこから想像するのは、この天から降りてくる都が、夫のために飾られた花嫁のように美しいという事。同時に、私達が住む都、新しいエルサレムが天から降りてきます。それが地上にあるのか、浮いているのか、様々な疑問が投げかけられますが、それは私達の永遠の家です。私達は新しいエルサレムにいて、天で神の臨在にいます。それは美しい都です。限られた情報から私達に分かるのは、それは1500マイル四方の立方体で、住民は数十億人はいるでしょう。私達に与えられている限られた情報からも、その都の美を理解出来るフレーズが使われています。

**[アミール]** 思い出してください。私達は「花嫁」で、その新しいエルサレムは「花嫁のように」です。聖書には「花嫁のように」と書かれています。「花嫁」ではなく、多くの人が混乱して、「花嫁」とは教会ではなく、新しいエルサレムであると考えていますが、聖書は非常に明確に告げています。私達はキリスト

の花嫁です。そしてもちろん、この都は、バリー牧師が言ったように「花嫁のように」美しく、魅力的で、準備ができています。

[ジェイソン] ええ、その通りです。黙示録では、ヨハネが自分が見ているものを最善を尽くして表現していて、「…のような」とか「…に見える」という言葉が多く使われています。次は、アミールに先に答えていただきます。アンからの質問です。

**Q3：「エゼキエル38章のシナリオが繰り広げられ、本当に実現するためには、イスラエルとアラブ首長国連邦の間にあるような外交的な合意が、さらに多く必要なのでしょうか？これは本当に良い事で、そこから、良い影響がたくさん出ていますから。しかし、エゼキエル38章のシナリオが現実のものとなるためには、さらに何かが必要なのでしょうか？」**

[アミール] それ自体は必要ありませんが、しかし非常に明白な事があります。お伝えしますと、今日、私はツイッターで投稿しましたが、ギリシャとアラブ首長国連邦が条約に署名しました。さて、皆さんは思うでしょう。「なぜ、アラブ首長国連邦はギリシャと条約を結んだのか？彼らは中東でもないのに？」でも、現時点でギリシャとアラブ首長国連邦は全く同じ不安材料に直面していて、それはトルコです。イランとトルコは中東の情勢を不安定にしている根元で、それが非常に美しく、興味深い形で国々の間に同盟や条約、平和的な協議を生み出しているのです。そして、これらのどれ一つとして、反キリストとは一切関係ありません。これらはエゼキエル戦争の前の3項目で、イスラエルが強く、安全、安心、繁栄した国となるエゼキエルのシナリオに繋がります。ですから、私は今のどんな和平協定も恐れていません。

ところで、念のために言っておきますが、イスラエルとアラブ首長国連邦の協議でイスラエルの併合が停止した為、皆がこの協議を攻撃していますが、一つ言わせていただくと、アラブ首長国連邦の副外相が今日、言いました。イスラエルが西岸の主権を拡大しても、アラブ首長国連邦とイスラエル間の正常化は継続する。彼がそう言ったのです。彼らはパレスチナの大義の支持者とみなされる為に、パレスチナ人の鼻先にぶら下げるニンジンのようなものが必要だったのです。しかし、そのおかげで彼らはイスラエルとの取引を結ぶ自由を得ました。そして、一旦取引が成立し、その成果を見れば、どんな併合が行われても、それが11月の選挙前に行われたとしても、それで彼らが動揺したり揺さぶられる事はありません。ですから、大きな事—エゼキエル戦争—が起こる前に、さらに多くの肯定的なことが起こるのを見るでしょう。そして、アメリカが強く、今の中東で起きていることを全て見ている限り、まだ少しだけ時間があると思います。私が思うに、アメリカが中東の政治地図から姿を消すと、ロシア、その他が穴から出て来て、イスラエルに攻め込むでしょう。この時点では、イスラエルに手を出してはいけないのは中東周辺の人にはかなり明白です。最大の同盟国アメリカは、シリア、イラクでも活動的ですし、他の湾岸諸国、サウジアラビアでも活動しています。アメリカは、まだ力を持っています。しかし、もしアメリカが外れると、その時、先ほども言ったように、ムジナが穴から出て来ます。

[ジェイソン] はい。ありがとうございます。バリー牧師、デビーからの質問です。

**Q4：「千年王国の間、地球はどんな姿になるのでしょうか？今と似たような感じでしょうか？機能は似たようなものになりますか？環境はどうでしょう？」**

[バリー牧師] さて、イエスの足がオリーブ山に降り立つ時、大きな谷が出来、真水が地中海に流れ込むと言われています。そして水は反対側の死海にも入り、死海がよみがえり、（エゼキエル書47章参照）獅子と子羊と一緒に寝そべり、子どもがコブラやまむしと穴の上で遊ぶと伝えられています。（イザヤ書11:6～9参照）ですから、千年王国の間に、地球がエデンの園のような状態に戻るとというのが最も適切な表現だと思います。百歳で死ぬ者は若かったとされ、要するに、100歳で死ぬ人は赤ちゃんが死んでも同然で、（イザヤ書65:20参照）地球上の人類の寿命はノアの時代以前の状態に戻るでしょう。それは輝かしい場所、美しい場所になるでしょうが、明らかに、それはまだ地球です。エジプトが仮庵の祭りにいけにえを持ってこな

ければ、エジプトに雨が降らないように空を閉ざすとありますから、（ゼカリヤ書14:18参照）水循環などはまだ存在し、今と同じシステムでしょう。しかし、地球はずっと良い状態になると思います。これが何を意味するかというと、具体的に全ての詳細を述べることはできませんが、エゼキエル書とイザヤ書の最後の章を見ると、その時代を垣間見ることができるよう物事が異なり、根本的に変化することが分かります。

[ジェイソン] はい、何か追加はありますか？

[アミール] ええ、この時、初めてイエスが政治的に全地球の王として君臨し、支配され、霊的に、天の父なる神の隣におられて、私達のために執り成してくださるだけではありません。主は政治指導者として戻って来られ、戦士として戻って来られます。主は敵を打ちのめし、ダビデの王座に座って、そこから支配されるのです。また、私達が覚えておくべきなのは、千年王国の終わりに、サタンが千年王国の初めに投げ込まれた底知れぬ穴から解放されます。そして残念ながら、イエスが王となり、バリー牧師が言ったようにエデンのような世界で千年間を過ごせば、もう、人は罪を犯さなくなるとあなたが考えているのであれば、その考えは捨て去ってください。なぜなら、最後の最後に多数の者がサタンに加勢し、信徒の陣営と最愛の都に敵対しますから。ですから、そこは非常に興味深く、美しいのと同時に、非常に嘆かわしいものです。

[ジェイソン] さて、千年王国の間のサタンの運命について、ロイスからの質問です。

**Q5：「サタンが落とされた時、彼は実際、まず、どこに投げ込まれたのでしょうか？そして、ヨハネの黙示録では、大患難の半ばに彼が天から追放されたことも書かれています」**失礼しました…彼は、大患難の最中に、再び天国から追放されます。「これら2つのシナリオを、どのように区別すればよいのでしょうか？」

一つ目を説明してから、二つ目を説明していただけますか？

[アミール] 私は天国にも領域があると信じています。一番高い山もあれば、下層もあります。そして、サタンは地上そのものに投げ落とされたのではなく、ただ、下に投げ落とされたのだと思います。彼は稲妻のように降りてきましたが、私が信じているのは…ほら、携拳が起こり、反キリストが明らかにされると、これが言わば「大なる交換」です。これは、黙示録の12章が説明している天での戦争です。その為、こう書かれています。「**私達の格闘は、血肉に対するものではなく、…**」何に対してでしたか？（エペソ6:12参照）**「主権、力、…」**どこの？**「天にいる」**天の領域です。だから、彼は投げ落とされましたが、まだ、地上そのものではありません。彼は地上の特定の領域に現れていますが、必ずしも地上ではありません。繰り返しますが、それ、私達には未知の領域です。なぜなら、彼は荒野の40日間にイエスを誘惑しようとした時、もちろん、それはどこかの荒野でした。しかし、それは他の人には見えない領域だったのかも知れません。つまり、文字通りサタン自身が地上に落とされ、もはや天に住むことができなくなるのは、反キリストが支配し、教会がここになくなる時です。ほら、すごい交換になりますよ。教会は上げられ、サタンは下りてきます。私にとっては、これは非常に驚くべきことです。なぜならイエスは、まさに、この事から私達を守っておられ、文字通り、サタンが支配する地上から私達を連れ去ってくださるのです。今のところ、「**この世の神（第二コリント4章）**」として、彼が霊的に支配しているような肩書きがありますが、彼は物理的に支配するようになります。そして、反キリストが竜からその座と力と権威、すべてのしるしと不思議を受ける時、竜は彼と共にそこにいるのです。それは恐ろしい事態です。サタン自身が地上にいるのですから。そして…その間に信者になることが想像できるでしょうか？地上の悪魔の存在を想像できますか？彼はもはや空中におらず、ここに一緒にいるのです。ひどく恐ろしいですね！ありがたいことに、我々は、その神の御怒りを受ける運命ではなく、（第一テサロニケ5:9参照）私達はここにはいません。反キリストが明らかにされるためには、私達は取り除かれなければなりません。（第二テサロニケ2:6~7参照）繰り返しますが、大使達は、戦争が始まる前に故国に呼び戻され、まさに戦争が地上に移った時、我々は天に帰ります。

[ジェイソン] すばらしいですね！将来的なサタンの大きな役割と言えば、エイミーからの質問です。

Q6: 「ダニエル書12:1によると、著者が記録しているところでは、世界が見たこともないような苦難の時になるとのことですが…」

[アミール] 正解です。

[ジェイソン] 「…これは、7年間全体を指しているのですか？それとも後半の3年半だけを指しているのですか？」

[アミール] バリー牧師、答えていただけますか？

[バリー牧師] はい。これはかなり明白です。黙示録の4頭の馬で、反キリストはイスラエルとの7年間の契約を手にして、世界舞台に登場します。そして、その反キリストの偽りの平和を奪う2頭目の馬に乗った騎手と共に事態は直ちに崩壊し始め、御怒りが地球に注がれます。大患難全体が神の御怒りなので、“御怒り前携拳説”（大患難後期携拳説）の立場の人には、“御怒り前”という意味で同意します。しかし、大患難全体が神の御怒りであり、後半だけではありません。

さて、意見の分かれ目は、荒廃の忌まわしい出来事が起こる時、反キリストが、再建された神殿に座り、自分が“神”であると宣言し、ユダヤ人が荒野に逃げ込む時が、神がイスラエルへの戒めを完成させる過渡期で、そこから彼らは、

「自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように…その者のために激しく泣く。」（ゼカリヤ書12:10参照）

したがって、移行期間があります。しかし、大患難全体が神の御怒りです。そして、黙示録の4人の騎手はそれを明確にしていると思います。最初の2人の騎手の間に3年半の間があることは示されていないですし、物事は本当に急速に悪化します。契約が確立された後、平和が地上から奪い取られ、人々はお互いを殺し始め…互いに殺し合うことは、赤い馬に乗っている騎手もがたりますが、ここで使われている言葉は、いけにえとして「屠殺する」という意味です。ですから、地上では恐ろしい時間です。黙示録の4騎手の間に何が起こるかを見れば、人間が自分の蒔いたものを刈り取っていると言え、その結果として神の御怒りが地上に降り注がれているのです。そして神の激怒は、神が人類と関わる場所から始まり、それから事態は地質学的、宇宙的なレベルにまで発展します。小惑星の衝突や彗星、地震、太陽が過熱したり、負電荷や何かを帯びたイオンが地球に送られたり、黙示録の16章に書かれている事が起こります。でも、7年間を通して、全てが神の御怒りである事は明らかです。

[ジェイソン] はい、黙示録の最初の一連のさばきを見れば、これは神の御怒りが注がれる、ある意味、重く「特殊」な時代だと分かります。

[アミール] 全世界から見ても、お二人の言う通りだと思います。全体が御怒りです。ダニエルでさえ、御怒りの後半部分を語る際には、御怒りの後半部分と言っています。基本的に、彼はヘブライ語でそう言っています。だから、全部が御怒りです。しかし、私達全員が同意していると思いますが、最初の3年半の間、ユダヤ人が盲目にされ、これは試練の期間で、彼らは、彼に、いわゆる平和を持つことを許し、そして神殿を建設します。しかし、彼が自分を“神”だと宣言した瞬間に対立が起こり、ユダヤ人たちは言います。「いや、お前は神ではない。これは我々が支払ったものではない。これは我々が求めたものではない」その時から、彼は、彼らを迫害し始めます。そして黙示録12章によれば、イスラエルは砂漠で1260日過ごします。ある人達は、ダニエル書12:1は反キリストのイスラエルに対する迫害であって、初日から、全世界が恐ろしい時代に直面するのではない、と示唆する人もいますが、ちなみにイスラエルでさえ、初日から恐ろしい時代に直面します。二人の証人の話を読めば分かりますが、最初の3年半、彼らは神殿の隣にいます。そして、すでにご承知のように、彼らの周辺では非常に恐ろしいことが起こっています。しかし、ユダヤ人の中で、少なくとも神に忠実な者たちは、この男が自らを“神”を名乗ることを理解した瞬間、この男を拒絶す

るでしょう。彼らは反キリストを拒絶し、砂漠に逃げ、彼はユダヤ人たちを迫害するでしょう。ヨハネの黙示録12章を読めば、彼が、文字通り彼らを消そうとしているのが分かります。あ、ジェイソンが戻ってきました、ジェイソン。ジェイソン、寂しかったよ。

[ジェイソン] すみません。

[アミール] 気にしないで。ジェイソン、次の質問に行きましょう。

[ジェイソン] はい、7年間全体が御怒りであるという議論に続いて、ドナからの質問です。

**Q7: 「ユダヤ人達は、どこに逃げるべきかを、どうやって知るのでですか？多くの選択肢があるのでしょうか？どこに逃げるべきか、彼らは、どのようにして知るのでですか？」**

[アミール] ものすごく簡単ですよ。A) 選択肢は、ほとんどありません。B) 唯一、受け入れる為に供えられている場所、唯一、彼らを受け入れるために門が開かれている場所です。聖書には、神が彼らのために場所を用意しておられる、と書かれています。昔から用意されている場所です。だから、「何かあったら駆け込む場所があるよ」と、これまでに彼らが聞いている可能性は十分にあり得ます。もしかすると、二人の証人が言うのかも知れません。「反キリストにひれ伏すつもりのない者には、念の為に言うておくが、神が用意した場所がある」その二人の証人のメッセージの内容そのものは分かりませんが、一つ確かなのは、神が場所を用意しておられ、彼らは、その場所に駆け込むという事。ですから、何らかの形で伝えられるのでしょうか。ところで、私の教会の長老の一人が言うには、1960年代に、ある信者の団体がエルサレムに来て、当時、まだエルサレムの東側はヨルダンの手中にありましたが、彼らはヨルダン側に渡り、バスでペトラに向かい、何百冊ものヘブライ語の旧約聖書と新約聖書をペトラの洞窟に隠したそうです。彼らの考えでは、ユダヤ人は逃げ出すと、それまで彼らが拒絶していた書を読まざるを得なくなり、そして、主が来られる時には、彼らは主がどなたであるかを正確に分かっている。かなりすごい、本当に素晴らしいですね。バリー牧師、これについて、何か一言ありますか？

[バリー牧師] ええ、これはダニエル書の70週目で、神が過去にもされて来たのと同じ形でイスラエルを扱っておられる事が分かるので、神には彼らを導くことがお出来になると分かります。神が雲の柱と火の柱の中におられて、彼らを導き、彼らの前を進まれたことを思い出せば、（出エジプト記13:21~22参照）確かに、これも主には可能であることが分かります。でもアミールが言っていたように、大患難の期間中は超自然的な活動が多数起こります。14万4千人のユダヤ人説教者が現れ、（黙示録7章、14章参照）2人の証人が登場し、（黙示録11章参照）御使いが中空を飛び、永遠の福音を宣言します。（黙示録14:6参照）ですから、情報には事欠かないでしょう。アミールが言ったように、60年代にこれらの文書、ヘブライ語の聖書が置かれた事は、私も聞いたことがあります。長年にわたりクリスチャン達がユダヤ人に新約聖書が渡るようにしています。イザヤ書53章や新約聖書に書かれている他の箇所が、その時になれば、よく理解できるようになるでしょう。私がいつも面白いと思う事の一つ、特にここ、アメリカの様々なユダヤ人の人達と出会い、話をすると、私達が旧約聖書を研究していて、それが神の靈感に基づく神の言葉だと信じていることに、彼らは驚くのです。ですから、彼らに伝えられて来た情報や教会の存在が地上から取り除かれたり、その時、ヘブライ人が当惑するような事が多く起こり、調査につながるだろうと思います。しかし、神はこれまでされて来たように、確かに超自然的な方法で、主の思い通りの場所に彼らを導くことが可能です。

[アミール] そうですね。

[ジェイソン] そうですね。さて、アミール、あなたの今日のツイート、「**神殿の丘に穴が開いたことが明らかになり、イスラム教当局が、すぐに行って自分たちで処理した**」これについて、少し詳しく説明していただけますか？また、聞いたことがない人たちに、何が起こったのかを教えてください。

[アミール] ええ、神殿の丘は…一つ、明確にしておく「ダビデの町に神殿があった」という話は、ナンセンス中のナンセンス以外、何ものでもありません。私はその場所を何度も見ていて、神殿の基礎が見つかったと言えます。我々は、そのサイズを正確に把握しています。門がどこにあったのか正確に分かってい

ます。門を見つけたのです。したがって、「ダビデの町に神殿がある」という事を本を書いている素人のペテン師たちは、何も分かっていないのです。ちなみに、イスラエルの主要な考古学者たちは、彼らを支持していません。そこから、なぜ神殿の丘の小さなことが大騒ぎになるのか、について話したいと思います。なぜなら、神殿の丘にあるものは、すべて第一神殿時代と第二神殿時代にさかのぼるからです。そしてイスラム教徒は、それをよく知っています。イスラム教徒が「違法発掘」していた時…実際には「発掘」ではなく、彼らは神殿の丘のアル・アクサ・モスクの地下を「工事」していて、その東側にブルドーザーを違法に持って行き、瓦礫を全部、投げ捨てて、外に投棄したのです。イスラエルの考古学者が、その瓦礫の山に駆け寄り、ふるいにかけてきました。今日もまだ、私達は人を送り込み、その瓦礫をふるいにかけていて、そこにユダヤ神殿が存在していたことの驚くべき証拠が見つかっています。イエスが両替人のテーブルをひっくり返した、あそこの王室の柱廊について描かれたコインから始まり、神殿のものであった数々の石や、装飾品に至るまで。この為に、穴が開くたびにユダヤのものが出てくるのを、イスラム教徒は非常に恐れているのです。その代わりに、彼らは直ちに…ほら、ここは遺跡ですよ？普通は、遺跡にコンクリートを流し入れたりしません。しかし彼らはコンクリートを流し入れるのです。さて、普通の人は3000年の歴史がある場所でも何か壊れると、慎重にそれを取り出し、綺麗にして、その下に何かあるのかを確認しますが、いいえ、とんでもない。彼らはそんなことはしません。詩篇85篇が何と言っているかご存知ですか？「まことは地から生え出で…」(11節a) 毎回、穴が開いたり、物事が覆され、碑文が見つかったりするたびに、カイザリアでも、長年、ポンテオ・ピラトは実在しなかったと信じられてきましたが、なぜなら、それは彼の名前が書かれたものが何も見つからなかったからです。

さて、1950年代に入って、劇場の座席の一つを発見し、裏返してみると、ポンテオ・ピラトに言及した碑文があったのです。ですから、「まことは地から生え出で」アラブ人は、それを必死で抑制しようとしていますが、それは出来ません。ですから、考えてみてください。考古学的な場所で穴にコンクリートを流し込むという事は、そこで何かが見つかるかを恐れている為です。そういうことです。また、神殿が他の場所に存在したと示唆するようなペテン師には従わないように警告します。我々は証拠を見つけ、破片を見つけ、門を見つけ、擁壁を見つけました。それが1000%正確であることが分かっています。非常に多くの事を発見しているのです。我々が発見したもののリストが数えきれないほどあります。そんな理論に陥る必要はありません。なぜならダビデの町は…ほら、もし第一神殿があった場所に神殿があったのであれば、そして、第一神殿がすでに立っていたときにダビデの町が存在していたのなら、なぜ、ダビデの町が神殿の丘にないのですか？ですから理解してください。それは、つじつまが合いません。ダビデの町は小さな場所で、あそこには神殿は建てられません。もしそこにあつたら、誰も近寄れなかったでしょう。だから、あの理論とは関わらないように。覚えておいてください。イスラム教徒は、なぜイスラム教徒がそこにドームを建てたかという、彼らが638年にエルサレムに入ったとき、ユダヤ人が神殿が建っていた神殿の丘に積み上がった岩の横で、嘆き悲しんでいるのを見たからです。彼らは、そこに岩のドームを建設しています。そして、彼らがそれを建てた当初はモスクでさえなく、聖墳墓教会と均衡を取る構造でした。モスクではなく、当時の教会が建てられていた八角形の形をした構造物です。皆さん、理解しなければなりません。我々が目にしているのは、サタンはこう言おうとしているのです。「おい、今、この場所は俺のものだ。ここは俺のものだ」だから、他の場所で探す必要はありません。我々は、どこにあつたかを知っています。それから言うおきますが、第三神殿がそこに建ちます。そして、言うおきますが、イエスが来られると、その山は完全になくなります。イエスの足がオリーブ山に立つと、オリーブ山は裂けると聖書に書いてありますから。(ゼカリヤ書14:4参照)そして、その間にあるものは全て谷となって、東から西へと広がり、そこから死海まで水が流れ始め、死海は蘇り、生き物が住むようになります。明らかに、それはダビデの町からではありません。我々は、それがどこに存在していたか知っています。ヘロデの時代、つまりイエスの時代の門を発見したのです。ソロモンの時代の壁の破片も発見しています。それは神殿の丘にあり、イスラム教徒もそれを知っています。1920年代までは、イスラム教徒が神殿の丘をどう呼んでいたのか知っていますか？彼らはそれを「バイト・アル=マクディス」と呼んでいました。これはアラビア語で「神殿」「神殿の場所」「神殿の家」「バイト・ハミクダシュ」イスラム教徒は、よく分かっています！彼らがそこを奪いに来たのは、それが理由ですから。その為に彼らはこんにち、こんな事をしたのです。彼らはコンクリートを注入して、真実に蓋をしようとしたのです。しかし、繰り返しますが、詩篇85篇が言うように、まことは地から生え出でます。



[ジェイソン] それは重要なポイントですね。彼らは遺跡の意義を知っていたから、取ったのでしょう。同じ使命があったら、皆さんも同じことをするんじゃないでしょうか？最も重要な場所に行って、自分のものとして再構築しようとするでしょう。

[アミール] ちなみに彼らは、ユダヤ人を雇って岩のドームを掃除させたのです。そして彼らは神殿では祭司が着ていたように白い衣を着ていて、まるで、あそこにその建物を建てることで、ソロモンの神殿をほぼ再現しました。ソロモンはコーランの中でスレイマンと呼ばれる人物です。つまり、彼らにとっては「うん。今聞いた聖書の話が気に入った。そこからコーランを作ろう。それに息を吹き込もう！」見てください。だから、彼らは恐れているのです。毎回地面に穴があくたび、そこに手を入れて引っ張り出すと、ユダヤ人の何かが出て来るのです。

[バリー牧師] 証拠ですね。

[アミール] もちろんです。

[ジェイソン] 少し話は変わりますが、神殿の話をして、将来の御国についても議論しました。そして、いくつかの聖書箇所、旧約聖書全体に、文字通り、本当の御国について、書かれています。それが、いつか、この地球上に確立されます。そこで、コメント欄で議論されているのは

### Q8：「イエスは、御父の右に座しておられるけれど、今はどうなのか？」

キングダム・ナウ神学の考え方のように、これには、どうやって対処しますか？純粋に、将来的な御国に関して、どうすれば分かるでしょう、バリー牧師？昔、預言者たちは、文字通りに話していたのだと、どうして分かるのでしょうか？これらは想像ではなく、<sup>くわわ</sup>寓話でもなく、これからやってくる現実です。

[バリー牧師] ええ、大事なものは、聖書には誤りがないという事だと思います。聖書の中で、よくあるのは、イエスは、神殿でイザヤ書61章を読まれた時も、主が初臨の時に成就されるところまでを読んで、そこで中断されました。しかし読み進めれば、その後、彼の再臨の前に起こる事について告げています。それから、キリストの再臨に関する有名な箇所を見てみると、主の初臨についての預言で成就されなかった事がいくつかあって、主は、まだダビデの王座にはついておらず、王権は、まだ主の肩にありません。主は、苦しみや、迫害に関する多くのことを成就されましたが、しかし、主の治世や、ユダ族の獅子としてダビデの王座に座り、鉄の棒を持って諸国を治めるといふ、主に関するこれらのことは、どれ一つとして起こっていません。ですから、それらは絶対的に必要なのです。なぜなら、最初の部分が成就していますから。主は生まれたみどりごであり、主は与えられた男の子であり、その名は不思議な助言者であり、すべて記述されていることは御父と共通の特性であり、主が神であり、神の御子であることを示しています。（イザヤ書9:6～7参照）これらのことは、すべて成就されています。しかし、まだ成就されていないことがあり、それらは聖書の完全性を保つために、成就しなければなりません。ですから、最初の部分が文字通りであれば、その残りも文字通りに成就されるはずで、聖書の完全性を維持するために、イエスはエルサレムで人間の政府の王座を築き、鉄の杖で国家を支配されます。

[ジェイソン] それから、文字通りの御国が人間の心についても明らかにすることが分かっています。これについて、言及しますか？

[アミール] そうですね。もしそれが霊的なものだったら、なぜそれが1000年に限定されるのか。

[ジェイソン] その通り。

[アミール] 霊的なものは霊的ですが、この王国には時間枠があるのです。聖書の「千年が終わると」（黙示録20:7参照）というこの箇所は、英語では「期限切れ(expired)」という言葉を使っています。「千年の”期限が切れると”、その時、サタンは…解き放たれ」（黙示録20:7参照）そして、「…諸国の民を、…

「惑わすために出て行き…」(8節) もし、それが現実のものでなければ、聖書は始まりも終わりも長さも告げません。

さて、私は、これで何年も何年も悩んでいました。携拳されてイエスの御前に行った後、なぜ私は、この地上に戻って来なければならないのか？なぜ、そのまま上において、新エルサレムまで待って、それから「追い越し車線」のようなもので、一気に行けないのか？それで私はある事に気づいたのです。まず私達にとっては、それは、あつという間です。神にとっては1日が千年のようなもので、千年が1日のようなものです。

(第二ペテロ3:8参照) 私達は栄化された体になりますから、私達のいる領域、道は全く異なり、私達にとっては、それほど長くはないでしょう。でも、もう一つお伝えしたいのは、神は人間に別のチャンス見せておられるのだと思います。1000年の間、直接イエスを見て、直接イエスに支配されて、バリー牧師が言ったように、エデンの園のような地球を、初めてこの目で見るのです。それなのに心はとても欺瞞的で、問題はサタンではなく、私達の心です。そして、サタンが解放された途端、大群衆が彼に加勢します。その為に、白い御座のさばきが千年王国の終わりにあるのです。なぜなら、千年の後、彼らにはイエスを信じず、イエスに従わない事に言い訳が出来ません。彼らは強くなっていて、サタンには一切関わらないはずで、それが、千年後、もし多くの人々がまだサタンに加わるなら、最終的で永遠の彼らの裁きは正しいことです。

【ジェイソン】 ありがとうございます。さて、シェリーからの質問です。王国から大患難に戻りますが、

**Q9：「ダニエル9:27によると、宗教的なユダヤ人がいけにえを捧げ、神殿での儀式を行う場所があることが分かります。私達にはここにはいませんが...しかし、ダニエルが言っているのは、彼らは神殿を再建して、実際に、旧約聖書に見られる、レビ記の律法とレビ族の祭司の生活を送るということでしょうか？彼らは、現代でも同じことをするのでしょうか？」**

【アミール】 まあ、多少の修正は必要でしょう。たとえば、契約の箱はまだありません。ですから、至聖所は、おそらく空っぽでしょう。そして、死と汚れから身を清めるために、灰にする赤い雌牛を考え出さなければなりません。(レビ記16:14、民数記19:2、ヘブル9:13参照) もし、本物の赤の雌牛が見つからないなら、テキサス州が提供してくれるでしょう。(笑い) テキサスでは、ずっとクローンを作ろうと頑張ってるんです。しかし、ラビが「それで十分」と結論付けるようなものを見つけると信じています。ほら、世界的指導者から神殿の建設の許可があり、すべての青写真が揃い、すべての請負業者の準備が整って、唯一妨げとなるものが赤毛の雌牛だけとなれば、信じてください。彼らを見つけるでしょう。彼らは、彼らにとって十分なものを見つけましょう。そして、聖書が告げている事を思い出してください。反キリストは、いけにえを途中でやめさせます。ですから、その前に神殿がなければなりません。そして、その前にいけにえの儀式があるはずで、私達は神殿が登場する事を知っています。第二テサロニケ2章に、反キリストがその神殿に入って、神の神殿で自分が“神”であると宣言すると書かれていますから。だから神殿は建てられます。そこで、良い知らせと悪い知らせがあります。良い知らせは、私達は反キリストには会いません。悪い知らせは、神殿、または反キリストのどちらかを見たいと思っている信者の皆さん、それは実現しません。反キリストが明らかになる時、自分はここにいると予測しながら、同時にイエスが来て、ここから連れ去ってくださるのを熱心に待ち望むことはできません。それは出来ません。聖書には明確に記されています。反キリストが現れる為には、引き止める者が取り除かれなければならないと、聖書が告げています。(7節参照) したがって、私が信じているのは、それらすべてが起こります。確かに地上の住人が見るのであって、私達が見るものではありません。私達はそれを見ることはありません。私達はそれを見ません。そしてそれは素晴らしいことです。私は第三神殿を見たくありません。第四神殿を見たいです。そしてもちろん、私は新しいエルサレムにいたいです。そこには神殿が一切ありません。(黙示録21:22参照)

【ジェイソン】 ありがとうございます。それから…どうぞ、バリー牧師。

【バリー牧師】 はい、ダニエル書11:31は、アミールが言った通り、反キリストが常供のささげものを取り払い、荒らす忌まわしいものを据えます。つまり、第三神殿の必要性が明確に示されています。ただ、聖書には「第三神殿が登場する」とは書いてありませんが、至聖所が汚されるのですから、神殿の再建が前提

となっています。そして、繰り返しますが、いけにえが復活します。これは興味深い時代になるでしょう。特に多くの動物愛護活動家が出て、世界で起こっている事を考えると、これが大患難の期間中に再び行われ、ユダヤ人は自分達の罪に対処する方法として、再びレビ記の律法に従って、動物の血の供え物であるいけにえを捧げるのですから。しかし、反キリストは罪のいけにえや常供のいけにえを捧げることを禁じるか、それを取り上げ、その代わりに言います。「私を崇拜しろ、私が神だ」そしてイエスは言われました。「それが起こったら、上着やセーターを取りに家に戻らず、とにかく、一心不乱に走って、そこから逃げなさい。ヤコブの苦難の時代が始まるうとしているから。」(マタイ24:15~22、ルカ21:21~22参照)

[アミール] イエスは、明らかにユダヤ人に話しておられます。

[ジェイソン] それから、デールがこのコメント欄に書いています。「反キリストの台頭を見ようと振り返る、”ロトの妻現象”が、たくさん起こるだろう」

[アミール] それ、使わせてもらいますよ。デール。ありがとう。(笑)

[ジェイソン] さて、バリー牧師、大患難といえば、おもに二人の証人の聴衆は誰なのでしょう？彼らが伝道する場所から見て、彼らがターゲットとしている、主な聴衆は誰ですか？

[バリー牧師] 先ほどお話ししたように、彼らの遺体がエルサレムの路上で3日間さらされるという事は、彼らはユダヤ人に伝道するという事です。そして、アミールが指摘したように、彼らは、人々に中間地点で行くべき場所の情報をシェアするのも知れません。彼らは神ご自身によって厳選され、靈感を受け、聖霊に満たされて、神の油注がれた人達ですから。そして、彼らはユダヤ人に説教します。繰り返しますが、これはダニエル書の70週目ですから。大患難の間に、あらゆる部族、言語、国の人々が無数に救われる事になりますが、その大部分は、教会の携挙の後にクリスチャンのメッセージを深く調べて、そして、自分が取り残された事に気づいた大勢の人達の、同じ証や証言によって救われるのでしょう。「神の全御怒りが地上に注がれる前に取り去られる機会があったのに、それを逃してしまった！」ですから、確かに彼らの対象は、おもにユダヤ人だと思います。しかし、思い出してください。全世界が通りに横たわる彼らの死体を見て、喜び祝い、そしてまた、三日半後に復活して天に上げられるのも目撃します。そういう意味では、世界は明らかに彼らのことを知っていて、彼らのメッセージは全世界にも伝わります。しかし、彼らの伝道は主に、ユダヤ人が対象になると思います。

[ジェイソン] はい、ではアミール、スタンレーからの質問です。

**Q10: 「大患難の前に起こるべき事は、まだ何か残っているのでしょうか？聖書の預言的な時間軸上で、大患難の前に起こる事として、私達が予測しておくべき出来事はありますか？」**

[アミール] もちろんです。私は、エゼキエルの戦争が大患難を進行させると考えています。そして、ダマスカスの崩壊(イザヤ書17:1参照)が、大患難を進行させるとも考えています。それは明らかに非常に特殊なことで、エゼキエル戦争を誘発すると私は信じていますが、その前に、携挙が起こらなければなりません。私達は神の御怒りに会う定めがないので、私達は大患難の時、ここにいません。それに携挙は聖書的な出来事です。ですから、私は携挙が差し迫っていて、それゆえ、それはいつでも起こりうるのです。エゼキエルの戦争は、その同盟国がイスラエルに侵攻して起こり、その前にダマスカスの崩壊が起こります。こういう出来事は、大患難の前に、間近に迫っているものです。

[ジェイソン] 携挙についてはどうでしょう？携挙の前に何か起こるべき事はあるのでしょうか？

[アミール] 全くありません。携挙が差し迫っているという考え方は、私達は常に備えるという事です。パウロは、この概念を理解していました。パウロは聖書だけでなく、イエスについても精通していました。イエスが彼の個人教師だったのです。パウロは、人の目に見えるものだけでなく、聖書の中の奥義も理解していて、「あなたがたに奥義を教えましょう」と言いました。新約聖書が旧約聖書の真理を明らかにしていて、その為、彼は言ったのです。「**まず、キリストにある死者がよみがえり、それから生き残っている『私**

達』が…」パウロは『私達』と言いました。「…私達が、彼らと一緒に…引き上げられ…」（第二テサロニケ4:16~17）そういう事です。さて、こう言う人も居るでしょう。「パウロは、本当に自分を指していたのではなく、信者のことを言っていたんだ」しかし、失礼ながら言わせていただくと、彼はキリストにある人々が死に、絶望していたテサロニケの信徒たちに慰めの言葉を書いているのです。ですから彼は、こんな風には書きません。「皆さん、元気を出してください。2000年後には…」違います。パウロがこの手紙を書いたとき、自分の生きている間にそれが起こり得ると、本気で書いたのです。私は、いろいろな意味でパウロのようになりたいと思っています。私は、多くの面でパウロのようになりたいくて、パウロを尊敬していますが、彼を尊敬する理由の一つは、携拳がいつでも起こりうるという純粋な信仰を彼が持っていたからです。素晴らしい生き方ですよ。その驚くべき祝福された希望が、自分の生きている間に起こり得ると考えて生きるのです。皆さんも、生きている間にそれが起こり得ると考えて生きるべきです。ユダヤ人にはメシアの歌があって、「たとえ主が遅れても、彼が来るまで待っている」と歌います。少なくともユダヤ人は、メシアが来るべきことを知っているの、「我々は、メシアが来るまで待つ」そして、パウロも同様です。パウロは言います。「私は知っている。イエスが、私達を迎えに来てくださる。主が、号令と、御使いのかしらの声と、ラッパの響きとともに降りてこられ、そして、私達は、空中で主にお会いする。私は、それが起こると知っている」そして、ひとこと言わせてください。私達は皆、それを経験します。今、ご覧になっている人たち全員にお伝えします。私達は携拳されます。もし、パウロが、こんにち、私達に見えているものを見たなら、イスラエルの土地への帰還、イチジクの木が芽吹き、この世代は過ぎ去りません。ですから、私は携拳が差し迫っていると信じています。それ以上に、イスラエルが故国に戻った今、この世代は確かに過ぎ去らないと信じています。

[ジェイソン] おっしゃる通りです。

[バリー牧師] 私達はその世代として認識しなければならないことは、私達は大患難の時代に成就することを目の当たりにしているという点です。そして携拳が差し迫っているというのは、それが突然、予告なしに起こるということです。だから、それはいつでも、どの時点でも起こりうるのです。そして、私達はいつも私達の偉大な神であり、救い主であるイエス・キリストの栄光ある現れの希望と慰めを期待して生きるのです。特に、この世代の私達は、パウロが終わりの日について語った、困難な時代を目の当たりにしています。人が自分を愛して、神を憎み、私達が見ている人々の態度は、大患難の期間中、地上に住む人々に顕著に見られるものです。彼らは御座にある方の御顔と、小羊の怒りが自分達に降りかかっていると知っていながら、悔い改める代わりに、山に向かって「私たちをかかまってくれ」と祈るのです。このような態度がこんにち、世界で展開されています。神以外、キリスト教以外、ユダヤ・キリスト教の価値観以外であれば、何でも良い。私達にとって、それが告げているのは、確かに携拳が切迫しており、確かに、いつでもそれは起こり得るという事。しかし、大患難の間に起こることが揃って来ている事を具体的に知る私達は、勤しみ、イエスのことを人々に伝道すべきです。時間がもうありませんから。パウロがテサロニケの人々を励ましていたように、第二テサロニケは、まさに第一テサロニケへの答えだったのです。というのも、主の日を見逃したと思って心配している人たちがいたからです。だからパウロは、「違う」と言ったのです。「いいえ、そうではありません。これこれこれが起こるはずだ。」さて、こんにち、私達はここで、これらすべてのことが起こるのを目にし、または、少なくとも大患難の間に成就するところまで発展するのを見ています。ですから、私達が生きるこの時代はエキサイティングどころではありません。ものすごい時代です。私は、毎週毎週、日曜日に教会で「イエスがもうすぐ来られる！」と言っています。教会の人たちは、「また言ってる」と言いますが、これは事実です。主はもうすぐ来られます！1世紀の彼らが終わりの時にいたのなら、21世紀の私達は確実にもっと近づいています。だからこそ、私達は期待して生き、そして、御父の業に励んで、イエスのことを他の人に伝えるべきです。

[ジェイソン] はい。最後に、掲示板に投稿された質問です。聖書の中には私達の認識に関する聖句がいくつかありますが、つまり、エゼキエル38のシナリオを取り巻く出来事やダマスカスの崩壊について、時間の関係で、この質問をもって最後とします。

Q11：ひと昔前、紀元前730年頃にアッシリア人がダマスカスを包囲して、地域を占領しましたが、

それをどう区別し、イザヤ書17:1と、どう同列にするのでしょうか？アッシリア人は攻め込みましたが、しかし、これがイザヤ書17:1が告げているものとは異なる出来事である事が、どうして分かるのでしょうか？

**[アミール]** もちろん、ダマスカスは完全に破壊されたことが、ただの一度もありません。世界で最も長い歴史を持つ都市の一つです。これは事実で、至る所で確認できます。ちなみに、彼らはそれを誇っています。ところで、イザヤ書には、そこが廃墟になると書かれています。歴史上の多くの古代都市のように、半壊して復元されるのではありません。いいえ、ここは町でなくなり、廃墟となるのです。ですから、疑う余地はありません。そして、それはイザヤ46章の記述に該当します。

**「わたしが神である。ほかにはいない。わたしのよな神はいない。わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ」**

これは、「まだなされていないこと」の1つです。間違いありません。私はずっと言い続けていますが、「ダマスカスで起こっている事に、しっかりと目を向けていてください」ダマスカスが崩壊した瞬間に…ちなみにイスラエル軍は、それをよく知っています。ダマスカスが崩壊した途端に、全ての怒りが我々に向かいます。彼らはこちらに向かって…ロシアは彼の手の内を見せています。彼らは全てをシリアにかけています。イランとトルコも同じです。トルコは同盟関係を見て激怒しています。イランは、現在、地域で同盟関係が結ばれるのを見て、激怒しています。ですから、彼らが我々に攻め込む口実が出来た瞬間、彼らはそれを利用し、躊躇うことはないでしょう。ですから間違いなく、ペイルートで起きた事をご覧ください。たった一回の爆発で街の4分の1が無くなり、街全体がほとんど…30万人が避難しなくてはならず、あの場所は廃墟です。想像できますか？シリア、つまりダマスカスには、その種の硝酸アンモニウムと、それ以上のものが、はるかに多く貯蔵されているのです。何かが爆発してダマスカスが地図から消えれば、イスラエルが全ての非難を受けます。

**[ジェイソン]** バリー牧師、追加しますか？

**[バリー牧師]** はい。「なくなる」という言葉ですが、「町でなくなり、廃墟となる」と書いてあります。この言葉は興味深いもので、ほとんどの言葉がそうであるように、文字通りの意味と比喩的な意味の二重の意味があります。「～でなくなる」の意味は、「水道の水を”止める”」のように「止める」。比喩的な意味は「斬首」です。どちらの言葉も、存在の終わりを暗示しています。そして、アッシリア人がイザヤ書17:1を成就したと言うのは、もはや存在しない場所にならなければならないので、そこでの言葉と矛盾することになります。町でなくなる。それは断たれ、斬首され、ダマスカスの町は、すべての命が絶たれます。ですから、イザヤ書17:1の成就にふさわしい歴史的な類似や成就是、歴史の中にはありません。ダマスカスが、こんなにち町である以上、言葉の意味が合いませんし、歴史にもありません。

**[ジェイソン]** そうですね。写真を見れば分かりますが、大都市です。風景の写真を見たら、一生のうちに目にするほとんどの町より大都市です。あれは見事です。

**[アミール]** さて、皆さん、お疲れ様です。一週間で最も早い時間の一つだと思います。ジェイソン、質問の受付と提示の二役をこなしてくださり、本当にありがとうございました。マイクの大役を引き継いでくれて、大成功でした。どうもありがとうございます。スライドを入れたいので、ジェイソンを除きます。さて、バリー牧師とビホールド・イスラエルの連絡先をご覧ください。繰り返しますが、バリー牧師のウェブサイトは、BarryStagner.comです。そこに、彼のソーシャルメディアの全情報が掲載されています。私も同様、BeholdIsrael.orgです。それ以外は「ビホールド・イスラエル」で、すべてスクリーンに映し出されています。

We love you!

皆さんのためにお祈りします。私達のためにもどうかお祈りください。では、バリー牧師、お祈りで締めくくっていただけますか？

[バリー牧師] もちろんです。

お父様、私達はあなたのみことばにとっても感謝しています。それは確かに誤りがなく、靈感を受け、不変であり、空しく返ることはありません。神様、今日、この時間に、あなたの御言葉が引用されたので、実りがあるでしょう。主よ、私達は歴史の終わりのこの時期に、特に迷っている人たち、あるいは真理を捜し求め続けている人たちのために祈ります。主よ、彼らが真理に至り、自由になりますように。真理とは、イエス・キリストは私達の罪を取り去るためにこの世に来られた、生ける神の御子です。主よ、あなたの比類なき御言葉の中での時を感謝します。神よ、エルサレムの平和のために祈ります。主よ、世界中の教会のリバイバルのために、主が来られる前に大いなる目覚めがありますように。私達を地上から連れ出してください。永遠にあなたと一緒にいられますように。あなたに感謝し、王の王、主の主としてあがめます。これら全てを、他の何よりも上にある御名、私達の救い主、イエシュアの御名によってお祈りします。アーメン。

[アミール] アーメン。アーメン。バリー牧師、今日はカリフォルニアからご参加くださり、ありがとうございます。通常、カリフォルニア人がイスラエル人に「そこは安全ですか？」と尋ねますが、今回は、私がお尋ねします。「カリフォルニアは安全ですか？」（笑）皆さん、愛をこめて、皆さんのためにお祈りしています。ソーシャルメディアで私達をフォローして、今後のオンライン・イベント情報をご覧ください。2週間後に、私はダラス/フォートワースのカンファレンスと、南カリフォルニアでの諸々のために米国に行く予定です。

[バリー牧師] はい、楽しみにしていますよ。

[アミール] 私もです。ありがとうございます。

God bless you!

イスラエル、ガリラヤより、シャローム！

さようなら。



← スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2021.04.14 (Wed)